

地域おこし協力隊

vol. 4

『陽子』の活動日記

12月初旬、尾鷲にて開催の三重県地域おこし協力隊初任者研修に行ってきました。尾鷲市は現在10人の地域おこし協力隊員が活動しており、その活躍は各地の地域おこし協力隊のお手本となっています。研修場所はシェアスペースになっている土井見世邸（どいみせてい）です。ここは尾鷲市の登録有形文化財になっており、和と洋の調和した空間がとても美しく心地のよい場所でした。そんな素敵な場所は、NPO法人『おわせ暮らしサポートセンター』の協働により、ゆるやかな関係人口づくりの拠点として再生され、シェアスペースとして活用されています。研修というと、何か堅苦しい話を聞いたりプレゼンしたりと胃が痛くなるようなイメージをしていましたが、今回は少し違いました。

まずは『おわせマルシェ』を成功に導いた方のお話から始まります。この方は商工会議所青年部の方でマルシェをやりたいと心に秘めていた時、地域おこし協力隊の方と意気投合、「人」「場所」「知識」が上手く調和し成功に繋がったとおっしゃっていました。そしてグループワークが始まります。トランプのような絵や数字などが書いてあるカードを使い、カードの内容から連想する話を10秒以内に話したり、そのカードを使って今ある考えの視点を変えてみたりと、ゲームのようでありながらも発想や視点の変化を作るグループワークでした。

最後は「尾鷲で巨大な倉庫を使い自分だったらどのように活用するか？」というテーマで、自由な発想や視点を話しあいました。その中で、時には無理なアイディアも出てきたりするのですが、それを先ほどのグループワークで試したような方法で違う発想や視点を与え、そのアイディアが変化していくのがとても楽しく勉強となりました。

その後は尾鷲で釣れた鯖をみんなで捌き、土井見世邸にある「かまどさん」でご飯を炊いて食べ、隊員同士の情報を共有して親交を深めて来ました。尾鷲の隊員の方、役所の方がひとつとなって心地良い空間を作っておられるのはとても素敵で、私が活動する飯南、飯高地区でもこのような場所が作れるように頑張りたいと思いました。



※地域おこし協力隊・人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。